

平成24年度 入学試験(2月1日実施)

国 語

[40分]

[注意事項]

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないこと。
2. 解答は、すべて解答用紙に記入すること。
3. 問題は1ページ～10ページの合計10ページあります。
ページが^ぬ抜けていたら、すみやかに手を上げ、^{かんとく}監督の先生に申し出てください。

東京農業大学第一高等学校中等部

一

次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に、⑥～⑩の傍線部の漢字をひらがなに、それぞれ直しなさい。

- ① 大きな声でトナえる。
- ② 公害についてのトウロン会に出席する。
- ③ 大きなキボの集会が行われる。
- ④ ボールが当たり、ゲキツウを味わう。
- ⑤ 拾ったボウをステッキにする。
- ⑥ 人間の尊厳を大切にする。
- ⑦ よく練られた計画に感心する。
- ⑧ 会議の方針に沿って行動する。
- ⑨ 顔を紅潮させて話す。
- ⑩ 大型の機械を操る。

二

次の①～⑤のはじめ君とあたる君の会話の内容と最も関係の深いことわざを選択肢のアーカより選び、記号で答えなさい。また、選択肢のことわざは一字抜けているので、選んだことわざに合う漢字も答えなさい。ただし、同じ記号を用いてはいけません。

- ① はじめ君「お年玉をもらったたら、ゲームを買って、お菓子も買って…」
 あたる君「まだ夏休みがおわったばかりだよ。お年玉、まだでしょう？」
 ② はじめ君「先生があんなに野球がうまいとは思わなかったよ。」
 あたる君「先生は、ああ見えても中学時代は野球部だったそうだよ。」
 ③ はじめ君「クラスの団結が目的なのに、企画会議で皆がいろいろ言ってさ…」
 あたる君「その結果、個人参加のゲーム大会に変わったんだよね。」
 ④ はじめ君「あの弱小チームが、あの強豪から試合終了間際に1点とったんだ！」
 あたる君「へえ、最後に意地を見せたんだね。」
 ⑤ はじめ君「あの店に昨日強盗が入ってね…」
 あたる君「ああ、知ってるよ。逃げる時についてに店の車まで盗んだんだよ。」

- ア 船頭多くして船□に登る イ □ 取った杵柄きねづか
 ウ 一寸の虫にも□分の魂たましい エ 毒を食らわば□まで
 オ 水清ければ□すまず カ 取らぬ狸の□算用たぬき

三

次の四字熟語の空欄に入る漢字をそれぞれ選択肢から選び、記号で答えなさい。

- ① 二束三□ (ア 分 イ 年 ウ 人 エ 国 オ 文)
 ② □ 知半解 (ア 半 イ 一 ウ 全 エ 十 オ 真)
 ③ 厚□無恥ち (ア 顔 イ 着 ウ 恩 エ 禄ろく オ 博)
 ④ 日進□歩 (ア 独 イ 海 ウ 月 エ 玉 オ 踏ふみ)
 ⑤ 同工□曲 (ア 美 イ 詞 ウ 偽 エ 異 オ 示)

四 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

私たち日本人は、膨大な量のエネルギーを使って便利な機械を動かしています。どのくらい膨大かというと、一人あたり年間、原油換算で約四〇〇〇キログラム。すごい量です——などと言つても、どれほどの量か あ ときませぬね。

そこで、私たちが食物として食べるエネルギー量の何倍なのかで言い直してみましよう。すると食べる量の四〇倍。体を使うエネルギーの、四〇倍ものエネルギーを、私たち一人ひとりが使っているのです。

昔のことを思えば、薪を燃やしていたくらいですから、体を使う分以外のエネルギーなど微々たるものだったと思われれます。だから今の私たちが、縄文人の約四〇倍のエネルギーを使って暮らしていると推測して、それほど間違ひはないでしょう。

① 1 社会生活の間も生物の時間と同様、エネルギー消費量に比例して速くなるとすると、今や時間が縄文時代より四〇倍も速くなっていることになります。

2、正確に四〇倍かどうかは分かりませんよ。でも大量のエネルギーを使うこの② 2 わしない世の中を見れば、この推測はさほど間違っていないように思えます。

社会の時間は桁違いに速くなったのですが、体の時間はそうではありません。私たちの心臓のリズムは、昔のままで変わっていないと思われれます。だって同じ体のサイズのヒツジと比べて、心臓の動きに、ほとんど差はないのですから。

体の時間は昔と何も変わっていないのに、社会生活の時間ばかりが桁違いに速くなっているのが今の社会です。 3 体の時間と社会の時間との間に、極端なギャップが存在しています。現代人には大きなストレスがかかっているとよく言われますが、そのストレスの主な原因は、この極端なギャップにあると私は思っています。

今の世の中、みんな疲れているのですね。元気いっぱいのはずの若者だって疲れている。沖繩の トーマ・ヒロコさんの詩に、学校に行つて朝一番の挨拶が「お疲れ」だつていう詩があります。

おはようも

ありがとも

ごめんなさいも

さようならも

おやすみも

もう要らない

この世を生き抜くためには

挨拶はひとつでいい

「お疲れ」だけで事足りる

(トーマ・ヒロコ「ひとつでいい」より)

みんな疲れているんです。社会の時間に追いつこうとして、疲れ果てている。社会の時間と体の時間との間の、ものすごいギャップを、みなが抱えている。こんなギャップを抱えながら、幸せだと感じて生きていけるものか、私は大いに疑問に思っています。

私は工業大学で教えています。まわりは技術者ばかり。彼らは、より速くより便利にという社会の要請に^{せう}応えるべく、日々研究しています。でも便利なものを作れば社会の時間は速くなり、体の時間とのギャップもどんどん大きくなっていく。²彼らが頑張れば頑張るほど、私たちはますます不幸になっていくのが現実かもしれません。

これは幸せとは何か、という問題ですね。一時代前は楽にどんな物を作れるのが、幸せへの道でした。でも、物が満ち足りてしまった現在、より便利でより豊かなことが、より幸せにつながるのかどうかは、よくよく考えねばなりません。技術とは本来、人類を幸福にするためのもののはずです。³技術の目指すべき方向が、このままで良いのかを、技術者をはじめ、私たち一人ひとりが考えるべき時期にきていると思います。

時間というものは、私たちがその中で生きている環境^{かん}と言ってもいいものです。環境は、いつも変わらず安定していてこそ、その中で安心して生きていけます。ところが今や時間環境が、どんどん速くなっているのです。ドッグイヤーなんていう言葉もありましたね。

日本国民の半数近くが、社会生活のテンポが速すぎると感じています。ヒトという生きものにとつて適切な時間環境があるからこそ、そういう感覚をもつのでしょうか。でも、より便利により速くと、どんどん時間が加速しているのが現状です。これは時間環境が破壊されていると言えるのではないのでしょうか。

今まで、環境問題というと、温暖化や、化学物質による環境汚染^おが問題にされてきました。時間が環境問題としてとり上げられることはありません。時間は変わらないというのが常識ですから、時間環境という問題の立て方はあり得ないからです。

ここが盲点なのです。地球温暖化も資源エネルギーの枯渇^{こかつ}も、元はといえば、い石油を燃やして時間を速めているのが原因です。

時間をもう少しゆつくりにして、社会の時間が体の時間と、それほどかけ離れたものではないようにする。そうやって時間環境問題を解決すれば、自動的に温暖化もエネルギー枯渇の問題も、解決してしまいます。

時間の問題から、エネルギー問題をはじめとする、他の多くの環境問題も派生しているのです。だから時間環境は、環境問題の中で、もっとも重要なものとして取り扱われるべきものなのです。そして、⁴そういう問題があることにすら気づかせない現代の時間観は、非常に問題の多いものだと思います。

エネルギー問題は、どうしても解決しなければならない大問題です。でも、将来石油がなくなるから省エネしようと呼びかけても、ほとんど効果はありません。オイルショックの時には、それなりに省エネは実行されたのですが、これは石油の値段が上がったから。子孫のために石油を残そうと禁欲したわけではありません。値段が下がれば4です。私だけが良ければいい、たとえ血のつながった子孫であろうとも自分以外のことは考えず、結局将来のことなど

考えないのが現代の個人主義というものです。一度手にした便利さを手放す人など、めったにいません。便利なことは幸福なこと、他人のために自らの幸福を手放すことなどありえないのです。「子孫のために省エネしよう！」というキャンペーンが効果をもつとは思えません。

発想を変えてみましょう。個人の幸福を手放させるのは無理なのですから、エネルギーを使えば不幸になると思わせればいいのです。「エネルギーを使えば使うほど、社会と体の時間のギャップは大きくなり、私たちはより不幸になるのだ。だから幸せになりたかったら省エネするしかない！」という言い方ならば、5 的な現代人にも、届きやすいメッセージになると思うのですけれど。(ア)

とはいえ、縄文人の暮らしに戻れ！などと言うつもりはまったくありません。文明の利器は、じつに便利ですから、これを使わない手はないのですが、速ければ速いほど良い、という考えに、③ 文明の利器を賢く使うにはどうすればよいかを考えたいのです。(イ)

私は、速い時間とゆつくりの時間とでは、時間の質が違ふ、そしてその時間の中で経験できることに違いがあり、生きている質そのものにも時間によって違いが生じてくるのだらうと思っています。

ゾウとネズミの話に戻れば、これらでは、エネルギー消費量に一八倍の差があり、だから時間の速さが一八倍も違い、ゾウの時間とネズミの時間とでは質が大きく異なっていると思われる。(ウ)

ちなみに私の研究対象であるナマコの時間は、われわれ哺乳類とは、とんでもなくかけ離れているようです。ナマコは超省エネ生活を送っています。ナマコのエネルギー消費量を測ってみたのですが、体重あたりにして、われわれの五〇分の一しか使っていません。だから私が一時間で使うエネルギーをナマコは二日もかけて使っていることになりました。ナマコの時間は、私のものとは完全に異質なもののなんだと、このほとんど動かず う としているナマコを眺め続けて、実感しました。(エ)

ア 東海道を足で歩けば、またぜんぜん違ったものに見えることでしょう。

イ その時の車窓からの景色は、ふだん見慣れたものとは、まったく違って見えたのです。

ウ 物理的には同じものを見ているはずなのに、列車の速度によって、まったく違う。

エ 時間の速度を変えただけで、同じものが違った様相を呈してくるのです。

オ 以前、新幹線で事故があつて、のろのろしか列車が動かなかつたことがあります。

だから、あえて珍しいものを追い求めてあつちこつちと駆け回らなくてもよいのですね。エネルギーを使つたり使わなかつたりして時間の速度を変えれば、同じものでも新たに楽しめる。省エネを手段として、楽しむ世界を広げることができるのです。(オ)

現代人は機械を使つて時間を操作できるようになりました。ということは、いろいろな質の違う時間を 6 的に作り出せるということです。ここはゆつくりの時間にしよう、ここは速い時間にしようというふうに、時間をデザインすることが可能です。エネルギーを介して時

間を操作することで、速いだけの世界より、より豊かな世界が経験できるようになると私は思うのです。

ゆつくりの世界には、速い時には決して味わえないものもあるはずです。私は若い頃、瀬底島という沖縄の小さな島で研究していました。沖縄のゆつたりした時間は、じつにいいものですね。ある夜、瀬底の浜を歩いていたら、漁師さんが一人、^{*}泡盛を飲んでいました。だまつて茶碗を差し出してくれます。砂浜にすわって、それをごちそうになる。そして茶碗を返す。

何度かそれを繰り返したのですが、漁師さんが、えとこう言いました。⁶「借金していい船を買えば、儲かるのはわかっている。でも、そんなことをしたら、こうして夜飲む泡盛の味がまざる」

私たちはエネルギーをどんどん使い、あれもこれもと次から次へとやる、それがいい、楽しいことだ、と思い込んでいます。でも、じっくり楽しむには、ゆるやかな時間が必要なのではないのでしょうか。また、ゆつたりおとして時間が入るからこそ、その前にやったことを反芻して楽しみをより深く味わい、また次にやることへの期待がふくらんで、実際に言うことが、さらに楽しいものになると思うのですね。

そして、ここが一番大切なことだと思うのですが、じっくりと時間をかけてつきあったものが、自分にとってかけがえのない大切なものになっていく——これは私の実感です。機械を使ってお手軽にすばやく済ませたものなど、結局は上っ面をなでただけのこと。7みたいなものかもしれません。こういうやり方ばかりに慣れ親しんでいけば、真の楽しみも得られないし、自然や他人や、そして人生との付き合い方も、深みのないものになってしまうのではないのでしょうか。

(本川達雄 『生物学的文明論』)

* 泡盛：沖縄特産の酒

問一

空欄

あ	い	お
---	---	---

 にあてはまる擬態語として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を用いてはいけません。

ア じゃんじゃん イ ボーッ ウ ピン エ ノテッ オ ぼつん

問二

傍線部①「微々たる」②「せわしない」③「警鐘」の本文中の意味として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①「微々たる」

ア みすばらしく醜みにくいこと イ ささやかで粗末そなこと

ウ 分量などがごく少ししかないこと エ 細かすぎて気づかないこと

オ 勢いがなくて弱々しいこと

②「せわしない」

ア 細かいことにこだわらない イ 人のことを気にしない

ウ 経済的にゆとりがない エ 動きがとれず自由がない

オ 忙しくてひまがない

③「警鐘」

ア 間違っていることを指摘てきするための合図

イ おかしな行為を禁止するための合図

ウ 正しく進むために人々を導く合図

エ 危険な事態を知らせるための合図

オ 法律を守るために発する合図

問三

空欄

1	2	3
---	---	---

 にあてはまる語句を次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を用いてはいけません。

ア つまり イ もし ウ おそらく エ しかし オ もちろん

問四

傍線部1「トーマ・ヒロコさんの詩」とありますが、この詩について、詩の形式として最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 口語定型詩 イ 口語自由詩 ウ 文語定型詩
エ 文語自由詩 オ 文語散文詩

問五

傍線部2「彼らが頑張れば頑張るほど、私たちはますます不幸になっていくのが現実かもしれません」とありますが、どのようなことですか。最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 技術者が社会のニーズにこたえるために便利なものを作れば作るほど、社会の時間と体の時間のギャップが、みんなの大きなストレスになり、不幸になっていくということ。

イ 大学で教える者が、楽にどんどん物を作れることが幸せへの道だと考えることによって物が満ち足りてしまった現在では、私たちは思考力をうばわれてしまい、もくろみとは逆に不幸になるということ。

ウ 技術者が、社会の時間に追いつこうとして疲れ果ててしまい、みんなの幸福を考えることをやめてしまえば、技術の発展が止まってしまい、社会の時間と体の時間とのギャップを埋めることもできなくなるということ。

エ 技術者が、より速くより便利にということに目を向けることで、社会の時間と体の時間のギャップをみんながかかえることになるが、そのためにみんなが不幸になるかどうかは大いに疑問があるということ。

オ 大学で教える者が技術者ばかりで、自分たちとは違い、世間の人々が社会の時間と体の時間のギャップをかかえて悩んでいることに気づかず、より速くより便利になることが世の中のためだと思っているということ。

問六

傍線部3「技術の目指すべき方向が、このままで良いのか」とあるが、筆者が考える今後の方向として最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 時間環境の速度を調節することによって豊かさを生む方向。

イ 世の中をより速くより便利にすることで幸福を得るという方向。

ウ 環境問題を地球温暖化や資源エネルギーの枯渇ととらえて取り組む方向。

エ 不幸にならないくらい程度の、省エネルギー問題に取り組む方向。

オ 文明の利器を使わず、ゆっくりとした時間の社会生活に戻す方向。

問七

傍線部4「そういう問題」とはどのような問題ですか。筆者が考えるものとして最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 子孫の将来に向けたエネルギー枯渇の問題。

イ 今後の人口増加を見込んだ食糧問題。

ウ 多くの環境問題の根源となる時間の問題。

エ エネルギー使用による地球温暖化の問題。

オ どのような生活が幸せなのかという問題。

問八

空欄 4 6 にあてはまる語として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|---------|---------|---------|
| 4 | ア 万事休す | イ 五十歩百歩 | ウ 犬の遠吠え |
| | エ 元の木阿弥 | オ うどの大木 | |
| 5 | ア 社会 | イ 創造 | ウ 利己 |
| | | | エ 都会 |
| | | | オ 主観 |
| 6 | ア 最終 | イ 基本 | ウ 個人 |
| | | | エ 意図 |
| | | | オ 形式 |

問九

傍線部5「文明の利器を賢く使う」とはどのような考え方に基づくものですか。最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 時間を短縮して沢山の仕事をする。
- イ その時その時に応じて時間環境を変える。
- ウ 時間をゆつくりにして今まで見えなかったことを楽しむ。
- エ 時間に関係なく自分の生き方をつらぬく。
- オ 時間を短縮することで自由な時間をたくさん作る。

問十

本文中の囲み部分の文章を正しい順序に並び替え、ア～オの記号で答えなさい。

問十一

傍線部6「借金していい船を買えば、儲かるのはわかっている。でも、そんなことをしたら、こうして夜飲む泡盛の味がまざる」という漁師さんの発言の意味を筆者はどのようにとらえていますか。最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 借金をしてまで機械化の進んだ現代の漁に取り組んでも、時間に追われるばかりでいつまでたっても借金に追われる暮らしになってしまう。
- イ 一度ゆつくりの世界から抜け出してしまつと、忙しく働くのが当然になってしまつて、生活が楽になつても夜に泡盛を飲むような楽しい仲間を失つてしまう。
- ウ 速い時間の流れに乗つてしまえば、金銭的には楽になるかもしれないが、自分がやっている仕事のことをふり返りじつくりと取り組む余裕もなくなつてしまう。
- エ 速い時間の流れに乗り遅れたことで今の余裕のある生活があるというのに、速い時間の中ではその余裕を失うくらい金儲けの方が楽しくなつてしまつてしまう。
- オ ゆつくりな時間の流れから抜け出しても自分自身を見失わなければ、夜に泡盛を飲むくらいの余裕は持てるのだから、心の持ちようなのだ。

問十二

空欄 7 にあてはまるたとえとして最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア じっくりと準備したが当日欠席した学芸会
- イ あらすじだけ聞いて読んだ気になっている本
- ウ テレビ番組で知って実際に行ったおいしいレストラン
- エ 一人だけで楽しんでいて誰にも貸したことがない漫画^{まんが}
- オ 皆がやっているのに自分は興味が持てなくてやっていないゲーム

問十三

次の一文が本文から抜けています。この文を入れるのに最もふさわしい箇所を本文中の(ア)～(オ)の中から選び、記号で答えなさい。

そして現実^{じつ}に生き方そのものが違っているのですね。

問十四

本文の内容と合致するものとして最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 日本は膨大な量のエネルギーを機械のために使っており、その量は世界中の人が食物として食べる量の四〇倍のエネルギーを一人ひとりが使うことに等しい。
- イ 人間は自分が手にした幸福を手放せないで、石油の値上がりの原因も、実は将来のことなど考えない現代の個人主義に支配されていることにある。
- ウ 速い時間とゆっくりの時間では時間の質が違うが、生きている質そのものとは関係がないので、ゾウとネズミでは時間の質が大きく異なることになる。
- エ エネルギーの量を変え、時間の速度を変えることによって同じことでも楽しむことができるので、省エネは自分の世界を広げる方法と考えられる。
- オ 時間をかけたものは自分にとって重要なものになるので、機械にたより簡単にすませた分、自由な時間を作らないと、自分の人生が浅いものになってしまう。

氏名

受験番号

得点

一

⑨	⑥	①
	紅潮	トナえる
	尊厳	える
		②
⑩	⑦	トウロン
	操る	③
る	練られた	
		キボ
	⑧	④
	沿って	ゲキツウ
		⑤
		ボウ

二

漢字	記号
①	①
②	②
③	③
④	④
⑤	⑤

三

①
②
③
④
⑤

四

問一	あ
	い
	う
	え
	お
問二	①
	②
	③

問三	1
	2
	3
問四	
問五	

問六	
問七	
問八	4
	5
	6
問九	

問十	
	↓
	↓
	↓
	↓

問十一	
問十二	
問十三	
問十四	